



## 絢爛豪華な時代絵巻「照姫まつり」が開催

～室町時代から伝わる伝説のヒロインに12万5千人が酔いしれる～

と き 4月28日(日)午前10時～午後3時30分

と ころ 都立石神井公園(練馬区石神井台1丁目)とその周辺

28日、都立石神井公園とその周辺で「第26回照姫まつり」が開催された。晴天にも恵まれ、会場は家族連れなど約12万5千人の人出でにぎわった。

「照姫まつり」は、室町時代中期に石神井城を居城としていた豊島泰経(としまやすつね)の娘・照姫にちなんだまつりで、練馬の春の祭典として定着している。

最大の見どころである「時代行列」では、絢爛豪華な衣装を身にまとった照姫、泰経公、奥方を中心に、勇ましい鎧姿の武士にふんした総勢100人が都立石神井公園内の野外ステージを出発し、公園周辺の約2.5kmをおよそ4時間かけて練り歩いた。

また、会場では伝統芸能や区内で活動する団体のダンス・音楽演奏なども披露され、石神井公園周辺はお祭りムードに包まれた。



にこやかに手を振る照姫



「石神井城物語」の様子

**【照姫まつりとは】**主催：照姫まつり推進協議会(照姫まつり実行委員会、練馬区観光協会、練馬区)

照姫は、室町時代中期に石神井城を本拠地とし、栄華を極めていた豊島泰経公の娘として語り継がれている。戦乱の当時、泰経公は宿敵太田道灌(おおた どうかん)に攻め滅ぼされると、愛馬にまたがり、現在の石神井公園にある三宝寺池に身を投じた。愛娘の照姫は、泰経公の最期をみると、悲しみのあまり自らも池に身を投げ、命を絶ったと言われている。

照姫まつりは、悲劇のヒロインである照姫を偲び、毎年春に行われる時代まつり。命を大切にし、家族・友人・生まれ育った地域を愛し、感謝することをテーマに開催されている。

### 【照姫に、観衆から盛んな拍手と声援が】

正午ごろ、照姫、泰経公、奥方の三役をはじめ、姫や武者等が公園内の野外ステージに登場。豊島氏の繁栄から滅亡の様子を描いた舞『石神井城物語』が披露されると会場は大きな拍手で包まれた。

そして、午後0時55分に、泰経公の「エイ、エイ」の掛け声が続いて、家臣たちの「オ-！」という勇ましい闘(とき)の声で、総勢100人の行列が野外ステージを出発。三役を輿(こし)に乗せ、名物の時代行列がスタートした。

三宝寺池に眠るとされる龍神を先頭に、武者や姫など総勢100人で構成される行列の長さは、およそ120メートル。沿道には大勢の観客が待ち構え、照姫たちが近づくとき大きな歓声や拍手を送り、三役は、手を振りながら、にこやかな笑顔で応えていた。また、途中、姫たちの舞が披露されたり、武者たちが観客に向けて刀を振り上げるなどの演出もあり、大いに盛り上がった。

### 【災害協定締結自治体もまつりに参加、10自治体の首長をステージで紹介！】

練馬区と災害時相互援助協定を締結している10自治体の首長をまつりに招待し、ステージで紹介。練馬区の災害時の備えと協力自治体との連携の強さを観客にアピールした。このうち、福島県塙町など5自治体は、会場内で物販を行い、それぞれのまちの特産品を来場者にPRした。

午後からは会場を移し、練馬区長と10自治体の首長が意見交換会を行った。各自治体の災害時の取り組みを紹介しながら意見交換を重ね、災害時に協力して立ち向かえるよう、日頃から顔の見える関係を築いていくことを確認した。(締結自治体：長野県上田市、群馬県前橋市、埼玉県上尾市、福島県塙町、群馬県下仁田町、群馬県館林市、西東京市、埼玉県和光市、埼玉県新座市、武蔵野市)

**【問い合わせ】**区民生活事業本部 産業経済部 商工観光課観光係 電話 03-5984-1032

危機管理室 震災対策担当課 震災計画担当係 電話 03-5984-1327